

観察 → 着眼 → 創発

愛知教育大学 教育学部 教授 富山祥瑞

◎ デザインとは、問題解決のクリエイティブ提案力

美術の分野にして、デザインは表現の主体が「自己」ではなく「社会」にあります。

デザインは、社会や日常の暮らしの中で見落としている様々なモノ・コトを観察（視点・視座・視野）し、その背景に潜む問題を掴み（課題化）、造形の立場からの課題解決に着眼した創発のプロセスそのものを指します。さらには、解決策が社会に伝わる仕組みまでを見通した一連の編集でもあります。

デザインは社会科学と考えてください。デザインを学ぶとは、これらマネジメント能力を磨くトレーニングなのです。

◎ デザイン教育研究室の卒業研究テーマ

当研究室の卒業研究のテーマは、教育学部の特徴を活かすために、① 教育分野、② 地域性（自治体・博物館など）、③ キャンパス内の諸問題 を主対象として指導しています。

本学の美術選修・専攻で課している卒業研究は「卒業論文」と「卒業制作」から成りますが、当研究室での卒業論文は、とくに卒業制作に着地する論証として重要視しています。卒論での成果の先に卒制を位置づけるのは、デザイン思考を涵養する最適な筋道と考えています。

◎ 卒論と卒制

『卒論』・・・一定量のある論理的な文章で編み上げられる「論文」作成は、生まれて初めてのチャレンジでしょう。調べ学習でも、エッセイでも、感想文でもありません。たった1年余ですが、ゼロベースから「卒業論文」をものにする鍛練をします。本冊子に掲載の「論文みたいなモノ」は、ゼミ生が4年前期に書いた、未だ取材や裏付けが甘い「思考の仮縫い」です。最終的に提出する卒業論文は、当研究室ではA4判で50頁を目処としています。

『卒制』・・・先行する卒論で導かれたコンセプトを受け、自らのテーマに基づく造形活動も初めての体験でしょう。今までと違い、テーマは一人ひとり違ってきます。これまで培ってきたセルフマネジメント能力を存分に発揮してください。当研究室ではコンセプトボード（A1判6枚相当）と、最終成果品をもってプレゼンテーションします。 (2016.9)